

安積疏水で水車発電・NTN、実証実験を公開

2016/9/7 7:00 | 日本経済新聞 電子版

ベアリング（軸受け）大手のNTNは6日、福島県の安積疏水（そすい）で水車を回す小水力発電の実証実験を公開した。プロペラの直径が60～120センチメートルの水車を置き、翼を肉厚にするなど独自技術による発電能力を検証。直径90センチメートルの水車なら一般家庭1日分の電力量を上回る12キロワット時を水路を損傷せずに発電できたという。

同社の「マイクロ水車」は、太陽光や風力の発電装置に比べ設置が容易なのが強み。6月から同県須賀川市内にある100メートルの区間に最大10台を設置し、流速や水量、設置間隔の違いによる発電状況を記録してきた。蓄積データをもとに一部改良を加えた上で、年内に1台130万～150万円で販売を始める。

小水力発電は水をせき止めてつくった水位の落差を利用する方法が一般的だが、同社は水流をそのまま生かした水車を活用。同社によると、国内の農業用水路は約40万キロメートルあるため「地産地消型の発電施設として潜在力が大きい」（石川浩二執行役員）という。安積疏水での実証実験は10日にいったん終了し、来春にも再開する方針だ。

東京電力福島第1原子力発電所事故で被害を受けた市側が、自然エネルギーの普及促進に安積疏水を生かすことを同社に提案した。安積疏水は那須疏水、琵琶湖疏水と並ぶ日本三大疏水のひとつで、4月に文化庁が日本遺産に認定している。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI Nikkei Inc. No reproduction without permission.

